

多読と語彙の統制に関する一考察

～『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』のコーパス分析から～

長 沼 君 主

In extensive reading, graded readers, in which texts are classified into several levels according to their range of vocabulary, are often recommended to learners. In those texts, vocabulary is controlled, and “simplified” input is given to the readers to eliminate the difficulty they may face in their reading. However, simplification sometimes entails loss of variety and authenticity of expressions, and therefore may tend to be monotonous and less interesting for the readers.

In this study, the frequency and coverage of basic vocabulary in an “authentic” novel are examined, and the percentage of, supposedly, “unknown” words are calculated. The result shows that the coverage of “known” words seems enough for readers to read texts with not so much attention to the detail understanding of the text, but rather to the pleasure of following the storyline. The use of authentic material in extensive reading thus seems promising, though further research is required to find about the cognitive process and strategies of the readers in reading authentic texts.

1. はじめに

多読というتماず思い浮かべるのが、Graded Readersと呼ばれる語彙のレベルをコントロールしたテキストである。Graded Readersは様々な海外の出版社からでてているが、例えば、Penguin のPenguin Readersでは、レベル0 (easy starts)で200語、レベル1で300語、レベル2で600語、レベル3で1200語、レベル4で1700語、レベル5で2300語、レベル6で3000語となっており、語彙バンドごとにレベル分けがされている。また、語彙レベルがあがるにつれて、ページ数(総語数)もあがるようになっており、例えば、OxfordのOxford Bookwormsでは、Penguinのものと同様にスタートレベルを含めて、7つのバンドに分かれているが、250語、400語、700語、1000語、1400語、1800語、2500語と語彙があがるにつれて平均総語数が、2100語、5200語、6500語、10000語、16000語、23000語、30000語といったようにあがっていく。

Graded Readersには他にもあるが、CambridgeからでてているCambridge English

Readersが400語から3800語レベルの6つのレベル、MacmillanのMacmillan Guided Readersが300語から2200語レベルの5段階といったように、大体、2000語から3000語を上限とした範囲の語彙が使われている。だいたい真ん中のレベルで1000語を超えたくらいの語彙レベルとなるわけだが、これは中学レベルから高校のはじめくらいの語彙レベルに相当する。中学レベルでの必修語彙は1998年の学習指導要領の改正で(2002年度より施行)、それまでの507語から100語に減ったが、新語の数は900語程度とされており、また、2004年度版の高校1年生向けの英語Iの教科書をみても、中学で学習したとみなす語は、800語から900語程度である。高校の指導要領では、高校1年生ではさらに400語程度、高校2年生では500語程度となっており、高校の最後にはGraded Readersの上位の語彙レベルまで手が届くくらいになる。

一方で分量はというと、高校の教科書は1ページあたり、およそ200語程度であり、1レッスンで500語から1000語の間くらいであることを考えると、Graded Readersの真ん中のレベルから上位になると、教科書まるまる1冊分くらいになることがわかる。これは、通常の読解のペースから考えると負荷が高くそのため、多読の指導では、理解度チェックのような形での評価は行われず、感想などを書かせるだけに終わることが多い。そして、何よりも面白いと感じて読むことが重要とされる(鈴木, 1996)。

ここで1つ疑問視されるのが、本物の(authentic)の教材と、簡易化(simplified)された教材との面白さの違いである。上記のようなGraded Readersを使つてのペーパーバックの多読をしている学習者は、しばしば、ネイティブの子ども向けの本にも手を伸ばすが、そうした児童書の方が面白いといった声も聞く。もともと子ども向けに書かれたテキストは、簡単に書かれてはいるが、人工的に制限された範囲の語彙で書かれたものとは異なり、ぎこちなさのない自然な(authentic)テキストであるということにもよるのだろう。これは中学や高校のテキストにも言えるが、オリジナルのテキストや映画の SCRIPT をもとにした抄訳本では、内容的にも簡略化され味気のないものになっていることもしばしばである。コーパス言語学では、総語数をtoken、異なり語数(語彙の種類)をtypeと呼ぶが、タイプ/トークン比(type/token ratio: TTR)と呼ばれる異なり語数を総語数で割ったものは、語彙の密度をあらわし、語彙のバリエーションが豊かであるのか、それとも同じ語が繰り返し使われるのかを示す指標とされる(齋藤ら, 1998)。使われる語彙のタイプが増えるということは、語彙的に難しくなると考えることもでき、それが語彙数を制限したGraded Readersの根本となる考えでもあるが、別の視点からは、そのような語彙をしぼったテキストは、単調な面白みにかけるテキストであるとも言える。

物語などで使われている語彙のタイプは多く、バラエティに富んでいるが、大半の語彙はあまり繰り返し使われることはなく、遭遇する大半の語彙は基本的な語彙であり、すでに知っている既知の語彙であるということも考えられる。もしそうであるのなら、少し読

むたびにつかかって、ストレスを感じるということもそれほど多くはないであろう。母語である日本語で新聞などを読んでいても、あまり気がつかないだけで、実際には意味を正確には(すくなくとも、辞書的に定義された明確な意味では)理解していないことも多く、なんとなく文脈からニュアンスを取っていることもある(卯城, 2000)。英語の読解に際しても、必ずしもすべての語彙がわかる必要はなく、逆にそういったあいまいさへの耐性(tolerance of ambiguity)をもつことが、良い読み手(good reader)としての条件であるかもしれない。また、長い物語であればあるほど(もしくは同じ作家の作品を読めば読むほど)、書き手が特徴的に使うような語彙は何度もあらわれることになり、自然と学習される中で既知の語彙が増え、読むのが楽になることも予想される。背景知識の量が増え、人物関係も整理されることにより、文脈からの意味の類推がききやすくなるということも考えられるだろう。

そこで本研究では、先日、出版されたハリー・ポッターの第5巻の『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団(Harry Potter and the Order of the Phoenix)』(Rowling, 2003)に焦点をあてて、語彙の分析を行い、様々な統計量をながめる中で、学習者への敷居がどれくらい高いものであるのかを考察する。ハリー・ポッターの最新巻を取り上げたのは、そもそもハリー・ポッターのシリーズが非常に人気が高く、児童向けの本ではあるものの幅広い年齢層に受け入れられており、読み通すだけの面白さを持ちあわせているであろうということがある。また、巻が進むにつれ厚くなることでも知られ、特に第5巻ではイギリス版で766ページと、多読の問題を扱うのに適しているといったこともある。これだけの長さの本を読むにはどれだけの労力が要求されるのか、以下に分析結果をもとに考察してみたい。

2. 分析と結果

ハリー・ポッター第5巻の分析にあたって、スキャナーとOCRを用いて、第5巻を含めたシリーズ全体のデジタル化を行った。その上で、章ごとにテキストファイルを作成し、1つのフォルダにまとめ、簡易的なハリー・ポッター・コーパスを作成した。ヘッダーなどのタグづけはされていないが、単純に語彙の検索などをするだけであれば、フォルダ内の複数ファイルをまとめて検索にかけることにより、容易にどの巻のどの章にある語が出現したかを特定することが可能となる。また、会話部分と地の部分を分けて語彙の分析をするため、会話のはじまりと終わりにマークをいれ、会話部分を識別できるようにタグづけをした。

分析にあたっては、既存のWordSmith ToolsやTextanaといったコーパス専用のコンコードダンス・ソフトウェアを使うことも考えられたが、今回の分析では、目的に特化した

形でPerl Scriptでプログラムを組み、正規表現を用いて特定の語彙の抜き出しや計量的な処理を行うことにした。テキスト中の語彙の分析にあたっては、変化形などは、染谷泰正氏のlemma辞書(染谷, 1998)を用いて基底語化し(辞書の見出しの形に変え)、テキスト中の語の頻度を産出し、章ごとに出現語彙とその頻度をリスト化した。その上で、適宜、既存の語彙リストとのマッチングを行い、語彙のカバー率などを算出するなどの処理をした。また、章ごとに新出の語の差分をとり、各単語の初出の章をリスト化した。以下に各章ごとの基本統計量を示す(表1)。

allは全体、nrtは地の文(narration)、cnvは会話文(conversation)のデータを示す。typeは異なり語数、tokenは総語数であり、それぞれの上段は頻度、下段は全体に対する比率をしめしている。type/tokenの上段はタイプ/トークン比の比率をパーセント表示したもので、語彙の密度をあらわし、下段は逆にtokenをtypeで割ったもので、1つの語彙が平均して何度出現しているかといった、テキスト中での繰り返しの多さをあらわしている。

分析の結果、ハリー・ポッターの第5巻にでてくる単語の総語数は25万8220語、語彙のタイプは8114種類であることがわかる(ここでいう総語数は、数字や間投詞のたぐい、また、途中で言いかけてやめた語などの、語を形成していないゴミを省いたものである)。センター試験の長文の総語数が(延べ語数のこと)600語くらい、かなり長めの入試問題でもまず2000語くらいの長さであることを考えると、かなり長く感じられるだろう。Graded Readerに換算しても、レベルにもよるが10冊から数10冊に相当する。

また、先ほども述べたが、高校の英語 I や英語 II の教科書の収録語数(異なり語の数)が、だいたい1000語から2000語くらいの範囲であること、また、各出版社からでている Graded Readersでも2000語から3000語くらいが上限であることを考えても、ハリー・ポッターに出てくる語彙数(type数)はかなり多くみえる。ただし、の中には人名や地名などの固有名詞、また、ハリー・ポッターの魔法の世界に独自のことばや、なまりなどの口語表現なども入っており、その他、基本語と呼ばれるような、中学校や高校のはじめででてくる単語も含まれていることにも注意したい。そこで、次にそのような固有名詞のたぐいや口語表現をコード化して抜き出し、また、基本語の比率も求めることにより、未知語の可能性の高い語がどの程度含まれており、どのくらいの割合で遭遇するのかをみってみる(表2、表3)。

中学レベルで習う単語約500語(中学校学習指導要領平成3年版別表の必修語彙リスト)と高校1年生レベルで習う単語約1000語(平成12年度版の英語 I の教科書48社分のテキストをデータベース化して作成された既存の語彙リスト-杉浦リスト [eigo1, ver.2] -をベースに、頻度上位の語彙から中学必修語彙や不規則変化形をのぞいたリスト)を基本語として、基本語のカバー率を見てみると、中学レベルの500語で第5巻全体の約

65.7%、高校1年生レベルまでで、約78.5%をカバーしていることがわかる。表3のunqは固有名詞や魔法の世界のことは示すが、第5巻における割合は約6.8%であり、基本語と合わせると、計算上は約85%の語彙が理解可能である可能性が高いことになる。既存の語彙リストで、基本語と重なる部分の多い低いレベルの語彙を見てみると、JACET8000の2000語レベルで80.3%、アルクのStandard Vocabulary Level (SVL)の最初の2000語でも同じく80.3%のカバー率であり、似たような結果を示している。また高レベルの語彙は比率が低だけでなく、繰り返し数も少ないことも見てとれる。ちなみに、なまりなどの口語表現は、表3にcolであらわされているが、第5巻全体で0.2%しかなく、数値的にはあまり問題となるレベルではないようである。ただ、たまに飛び抜けて高い章もあることから、注意を要するだろう(ちなみに、口語表現の多い第20章は、ハグリッドと呼ばれるなまりの多い登場人物の語りが多い章であり、会話文の比率も56.6%と多くなっている)。

さらに、会話文(cnv)だけを見ても、基本語となる高校1年生までの約1500語で84%くらいの語彙をカバーしており、固有名詞などをあわせると、90%以上の内容がわかることになる。会話の方が基本的な語彙の占める割合がずいぶん多いのがわかるが、逆にtype/tokenの値に着目すると、会話文の方が、語彙の密度が高く、繰り返しの低い結果となっており、地の文の方が、繰り返しが多いこともわかる。全体的にみると、だいたい34%くらいが会話文で、残りの66%が地の文であるが、これは平均であって、例えば、会話文は、第1章では17.5%、第34章では14.2%でしかない。それに対して、第5章と第20章では55%以上が会話文となっている。

出だしの第1章は地の文が多いこともあり、また、最初の取り掛かりをあたえる意味でも、どう読みこなすかが、最後まで読み通す鍵となるように思われるが、第1章の語彙の内、高校1年生レベルまでで約80%、固有名詞や魔法の世界のことは5%くらいなので、未知語の比率は15%ほどということになる。20語に3語わからないくらいの計算であり、何とか読みこなせないこともない程度であろうか。未知後の類推は20語に1語がひとつの基準とされるが(高梨・高橋, 1987, Nation, 1990, 野呂, 2003)、とすると第1章の読解にあたっては、辞書引きを併用しつつ時間をかけながら読み進める必要もあるだろう。

未知語は類推に認知的な努力を要すれば要するほど覚えやすく、逆に文脈が豊かで類推が容易であると、保持されないとも言われるが(Schmitt, 2000)、すべての語彙に等しく時間をかけて覚えようとするのではなく、重要な語ほど時間をかけて類推するなどの、注意の配分も必要となるだろう。ただ、そのようにして未知語を処理していくと、当然の事ながら、後半の章になるにつれ既出の語が多くなっていく。計算をしてみると実際のところ、第1章に出てくる語彙だけで全体の語彙の約80%をカバーしているのだが、未知語を、各章の語彙から既出の語彙を除き、さらに高校1年生までで習うと思われる約1500語の基

本語を除いたものであると定義すると、その比率は章を追うごとに少なくなっていく。分析の結果を表4および図1に示すが、例えば、第2章では新出語が15.4%、基本語を除くと10.6%で、第3章も10.9%と同じくらい、第4章で7.4%、第5章で6.0%と次第に減っていくのがわかる。

この中には新たに登場する固有名詞なども含まれており、後半の章になるにつれて、どんどんと見たことのない単語は少なくなり、テンポよく読み進めることができるようになることが予想される。第13章あたりからは未知語は3%台に突入し、第21章を過ぎるころには2%、さらに後半になると1%くらいにまでなる(ちなみに、第20章で未知語が突出して多い理由は、前述したようになまりの多い登場人物の1人語りが多いためである)。

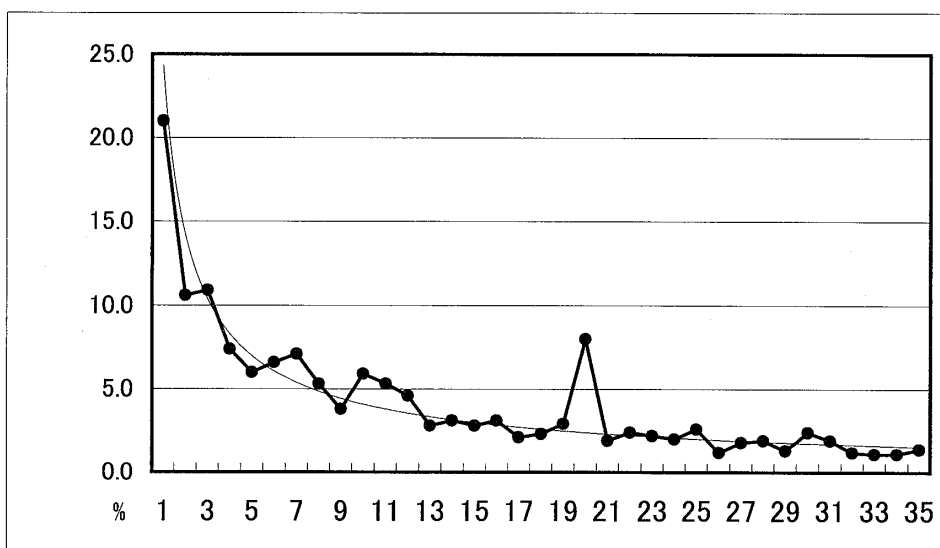


図1 ハリー・ポッター第5巻未知語比率と近似曲線

このように、テキストの中では多くの基本語が用いられているわけだが、その品詞の割合はどうであろうか。中学レベル、高校1年生レベル、それ以上のレベルと3段階に分けて、動詞、名詞、形容詞、副詞といった内容語に焦点をあてて比較してみた結果を表5に示す。分析にあたっては、JACET8000とSVLに含まれる語彙のみを使用し、Brill's Taggerと呼ばれる文法解析プログラムを利用した。分析結果からは、中学レベルの語彙では、動詞が飛び抜けて多く36043回出現していることがわかる。それに対して、次に多い名詞でも13426回、副詞はnotが含まれていることもあり意外と多いが、それでも12784回と動詞の1/3程度、形容詞は5604回とさらにその半分以下しかでてこないこともわかった。

では、動詞の種類がそれだけ多いのかということ、そういうわけではなく145個と、名詞の364個に比べて、半分くらいでしかない。1個あたりの平均出現回数に直すと、名詞が36.9回に対して、動詞は248.6回となり、まずは基本となる動詞をおさえて置くことが大事であることがわかる。動詞は全体では、1886個、53982回出てくるが、とすると、中学レベルでは種類としては、7.7%しか出てきていないにも関わらず、全体の回数の66.8%と、1割弱の動詞で2/3をカバーしていることになる。それに比べて、名詞では3137個で44275回と、11.6%で30.3%のカバー率となり、中学レベル以上の語彙にも多く含まれているのがわかる。形容詞と副詞はというと、形容詞が全体の回数の44.1%なのに対し、副詞は70.6%となっている。もちろん名詞も多く見られるが、中学レベルの基本語では、動詞と副詞の比率が高いことがわかる。

それでは、高校1年生のレベルではとみてみると、名詞は13838回、動詞は8476回と、今度は打って変わって、名詞の方が数多く出てくる。これは、種類の点からみても、名詞が574個になのに対して、動詞は348個と、回数をそのまま反映した形となっている。平均回数を比べてみても、24.1回と24.4回とで差はほとんどなく、単純に、名詞の方が種類も回数も多く含まれていることがわかる。全体との回数の割合で言うと、名詞は31.3%、動詞は15.7%と、高校1年生レベルでは名詞の方が多く含まれている。それ以上のレベルの単語で比べても、傾向は変わらず、高いレベルの語彙では名詞の比率が高いことがわかる。形容詞と副詞では、今度は逆に形容詞の比率が高くなっており、基本語より上のレベルでその傾向は強まっている。高いレベルの語彙では、動詞も重要ではあるが、名詞と形容詞の比重が増しているとも取れるだろう。

では、こういった品詞はどのような組合せで、文を構成しているのだろうか。2語ずつの組合せで、それぞれの文に含まれる品詞の組合せを集計した結果を表6に示す。結果からは、動詞と前置詞などの組合せが11511回とトップで、続いて、冠詞などと名詞の組合せと代名詞などと動詞の組合せが同じ11296回といったように、予想されるような組合せが上位に来ていることがわかる。

品詞をさらに、動詞、名詞、形容詞、副詞といった内容語と、前置詞や代名詞などのその他の機能語とに分けてみると、内容語と内容語の組合せが23.5%、内容語と機能語の組合せが28.7%、機能語と内容語の組合せが29.8%、機能語と機能語の組合せが18.1%となっている。機能語は、そのほとんどが中学レベルに分類されており(95.0%)、既習の知識として知っている語彙であると考え、未知の語彙同士の組合せとなるのは、内容語と内容語の組合せとなるが、その内、どちらも基本語でない組合せは2005回と、全体の1.1%にしかない。内容語と内容語の組合せのうち、どちらかが基本語でない比率と足し合わせてみても7.8%と、形容詞と名詞、動詞と名詞、動詞と副詞、動詞と形容詞などといった内容語同士の組合せの中の10%に満たないこともわかる。さらに機能語との組

合せまで広げてみても、どちらも基本語でない場合と合わせても20.8%であり、それでも80%近くの組合せは、知っている語彙の組合せであることがわかる。

表1 ハリー・ポッター第5巻語彙基本統計量

		type			token			type/token		
		all	nrt	cnv	all	nrt	cnv	all	nrt	cnv
All	frq	8114	6868	4346	258220	170070	88150	3.1	4.0	4.9
	%	-	84.6	53.6	-	65.9	34.1	31.8	24.8	20.3
Ch01	frq	1307	1185	335	5825	4808	1017	22.4	24.6	32.9
	%		90.7	25.6		82.5	17.5	4.5	4.1	3.0
Ch02	frq	1221	1007	481	6085	3984	2101	20.1	25.3	22.9
	%		82.5	39.4		65.5	34.5	5.0	4.0	4.4
Ch03	frq	1236	1028	451	5258	3909	1349	23.5	26.3	33.4
	%		83.2	36.5		74.3	25.7	4.3	3.8	3.0
Ch04	frq	1169	797	631	5697	2873	2824	20.5	27.7	22.3
	%		68.2	54.0		50.4	49.6	4.9	3.6	4.5
Ch05	frq	1149	678	685	5388	2403	2985	21.3	28.2	22.9
	%		59.0	59.6		44.6	55.4	4.7	3.5	4.4
Ch06	frq	1417	1061	700	6819	4111	2708	20.8	25.8	25.8
	%		74.9	49.4		60.3	39.7	4.8	3.9	3.9
Ch07	frq	1152	901	457	4596	3353	1243	25.1	26.9	36.8
	%		78.2	39.7		73.0	27.0	4.0	3.7	2.7
Ch08	frq	985	695	515	4242	2322	1920	23.2	29.9	26.8
	%		70.6	52.3		54.7	45.3	4.3	3.3	3.7
Ch09	frq	1436	1112	712	8094	5158	2936	17.7	21.6	24.3
	%		77.4	49.6		63.7	36.3	5.6	4.6	4.1
Ch10	frq	1324	1116	486	5864	4283	1581	22.6	26.1	30.7
	%		84.3	36.7		73.0	27.0	4.4	3.8	3.3
Ch11	frq	1304	1121	462	6019	4619	1400	21.7	24.3	33.0
	%		86.0	35.4		76.7	23.3	4.6	4.1	3.0
Ch12	frq	1582	1269	745	8415	5208	3207	18.8	24.4	23.2
	%		80.2	47.1		61.9	38.1	5.3	4.1	4.3
Ch13	frq	1539	1254	673	8993	5884	3109	17.1	21.3	21.6
	%		81.5	43.7		65.4	34.6	5.8	4.7	4.6
Ch14	frq	1518	1283	627	8120	5598	2522	18.7	22.9	24.9
	%		84.5	41.3		68.9	31.1	5.3	4.4	4.0
Ch15	frq	1336	1018	649	6890	4048	2842	19.4	25.1	22.8
	%		76.2	48.6		58.8	41.2	5.2	4.0	4.4
Ch16	frq	1174	938	535	5960	3507	2453	19.7	26.7	21.8
	%		79.9	45.6		58.8	41.2	5.1	3.7	4.6
Ch17	frq	1362	1069	618	6616	4231	2385	20.6	25.3	25.9
	%		78.5	45.4		64.0	36.0	4.9	4.0	3.9
Ch18	frq	1372	1106	607	6919	4480	2439	19.8	24.7	24.9
	%		80.6	44.2		64.7	35.3	5.0	4.1	4.0
Ch19	frq	1328	1110	552	6738	4599	2139	19.7	24.1	25.8
	%		83.6	41.6		68.3	31.7	5.1	4.1	3.9
Ch20	frq	1219	742	749	6041	2621	3420	20.2	28.3	21.9
	%		60.9	61.4		43.4	56.6	5.0	3.5	4.6
Ch21	frq	1450	1187	574	7338	5088	2250	19.8	23.3	25.5
	%		81.9	39.6		69.3	30.7	5.1	4.3	3.9
Ch22	frq	1541	1283	621	8039	5512	2527	19.2	23.3	24.6
	%		83.3	40.3		68.6	31.4	5.2	4.3	4.1
Ch23	frq	1484	1207	624	7458	4915	2543	19.9	24.6	24.5
	%		81.3	42.0		65.9	34.1	5.0	4.1	4.1
Ch24	frq	1535	1218	662	8082	5334	2748	19.0	22.8	24.1
	%		79.3	43.1		66.0	34.0	5.3	4.4	4.2
Ch25	frq	1598	1333	639	8129	5659	2470	19.7	23.6	25.9
	%		83.4	40.0		69.6	30.4	5.1	4.2	3.9
Ch26	frq	1540	1273	650	8622	5738	2884	17.9	22.2	22.5
	%		82.7	42.2		66.6	33.4	5.6	4.5	4.4
Ch27	frq	1470	1081	736	7510	4439	3071	19.6	24.4	24.0
	%		73.5	50.1		59.1	40.9	5.1	4.1	4.2
Ch28	frq	1544	1297	590	8059	6027	2032	19.2	21.5	29.0
	%		84.0	38.2		74.8	25.2	5.2	4.6	3.4
Ch29	frq	1418	1116	644	7463	4740	2723	19.0	23.5	23.7
	%		78.7	45.4		63.5	36.5	5.3	4.2	4.2

Ch30	frq	1599	1297	616	8295	5535	2760	19.3	23.4	22.3
	%		81.1	38.5		66.7	33.3	5.2	4.3	4.5
Ch31	frq	1597	1398	526	8003	6248	1755	20.0	22.4	30.0
	%		87.5	32.9		78.1	21.9	5.0	4.5	3.3
Ch32	frq	1233	870	633	6221	3195	3026	19.8	27.2	20.9
	%		70.6	51.3		51.4	48.6	5.0	3.7	4.8
Ch33	frq	916	697	382	3860	2618	1242	23.7	26.6	30.8
	%		76.1	41.7		67.8	32.2	4.2	3.8	3.3
Ch34	frq	1076	1000	233	5227	4484	743	20.6	22.3	31.4
	%		92.9	21.7		85.8	14.2	4.9	4.5	3.2
Ch35	frq	1206	1034	414	7742	6147	1595	15.6	16.8	26.0
	%		85.7	34.3		79.4	20.6	6.4	5.9	3.9
Ch36	frq	878	710	333	3844	2866	978	22.8	24.8	34.0
	%		80.9	37.9		74.6	25.4	4.4	4.0	2.9
Ch37	frq	1350	964	777	8113	4074	4039	16.6	23.7	19.2
	%		71.4	57.6		50.2	49.8	6.0	4.2	5.2
Ch38	frq	1489	1286	545	7636	5452	2184	19.5	23.6	25.0
	%		86.4	36.6		71.4	28.6	5.1	4.2	4.0

表2 ハリー・ポッター第5巻基本語 (J/HS)、JACET8000、SVL語彙比率

		type			token			type/token		
		all	nrt	cnv	all	nrt	cnv	all	nrt	cnv
All	frq	8114	6868	4346	258220	170070	88150	3.1	4.0	4.9
	%	100.0	84.6	53.6	100.0	65.9	34.1	31.8	24.8	20.3
JHS	frq	482	476	454	169726	105768	63958	0.3	0.5	0.7
	%	5.9	6.9	10.4	65.7	62.2	72.6	352.1	222.2	140.9
HS	frq	824	780	694	32975	22829	10146	2.5	3.4	6.8
	%	10.2	11.4	16.0	12.8	13.4	11.5	40.0	29.3	14.6
J/HS	frq	1306	1256	1148	202701	128597	74104	0.6	1.0	1.5
	%	16.1	18.3	26.4	78.5	75.6	84.1	155.2	102.4	64.6
JACET1000	frq	934	913	884	192610	121383	71227	0.5	0.8	1.2
	%	11.5	13.3	20.3	74.6	71.4	80.8	206.2	132.9	80.6
JACET2000	frq	814	749	637	146333	10704	3929	5.6	7.0	16.2
	%	10.0	10.9	14.7	5.7	6.3	4.5	18.0	14.3	6.2
JACET3000	frq	662	594	394	6767	5264	1503	9.8	11.3	26.2
	%	8.2	8.6	9.1	2.6	3.1	1.7	10.2	8.9	3.8
JACET4000	frq	427	340	250	2345	1647	698	18.2	20.6	35.8
	%	5.3	5.0	5.8	0.9	1.0	0.8	5.5	4.8	2.8
JACET5000	frq	449	386	230	3225	2585	640	13.9	14.9	35.9
	%	5.5	5.6	5.3	1.2	1.5	0.7	7.2	6.7	2.8
JACET6000	frq	409	358	175	2844	2344	500	14.4	15.3	35.0
	%	5.0	5.2	4.0	1.1	1.4	0.6	7.0	6.5	2.9
JACET7000	frq	335	286	126	1890	1556	334	17.7	18.4	37.7
	%	4.1	4.2	2.9	0.7	0.9	0.4	5.6	5.4	2.7
JACET8000	frq	319	276	111	1390	1123	267	22.9	24.6	41.6
	%	3.9	4.0	2.6	0.5	0.7	0.3	4.4	4.1	2.4
JACET_ALL	frq	4349	3902	2807	225704	146606	79098	1.9	2.7	3.5
	%	53.6	56.8	64.6	87.4	86.2	89.7	51.9	37.6	28.2
SVL1	frq	898	876	803	190126	120048	70078	0.5	0.7	1.1
	%	11.1	12.8	18.5	73.6	70.6	79.5	211.7	137.0	87.3
SVL2	frq	763	727	589	17323	11942	5381	4.4	6.1	10.9
	%	9.4	10.6	13.6	6.7	7.0	6.1	22.7	16.4	9.1
SVL3	frq	675	595	458	7127	5183	1944	9.5	11.5	23.6
	%	8.3	8.7	10.5	2.8	3.0	2.2	10.6	8.7	4.2
SVL4	frq	592	507	353	5139	3943	1196	11.5	12.9	29.5
	%	7.3	7.4	8.1	2.0	2.3	1.4	8.7	7.8	3.4
SVL5	frq	446	383	218	3033	2508	525	14.7	15.3	41.5
	%	5.5	5.6	5.0	1.2	1.5	0.6	6.8	6.5	2.4
SVL6	frq	396	338	175	2148	1708	440	18.4	19.8	39.8
	%	4.9	4.9	4.0	0.8	1.0	0.5	5.4	5.1	2.5
SVL7	frq	333	289	120	1565	1295	270	21.3	22.3	44.4
	%	4.1	4.2	2.8	0.6	0.8	0.3	4.7	4.5	2.3
SVL8	frq	298	247	116	1497	1124	373	19.9	22.0	31.1
	%	3.7	3.6	2.7	0.6	0.7	0.4	5.0	4.6	3.2
SVL9	frq	252	214	91	868	655	213	29.0	32.7	42.7
	%	3.1	3.1	2.1	0.3	0.4	0.2	3.4	3.1	2.3

SVL10	frq	256	217	88	1251	785	466	20.5	27.6	18.9
	%	3.2	3.2	2.0	0.5	0.5	0.5	4.9	3.6	5.3
SVL11	frq	245	210	81	5333	4485	848	4.6	4.7	9.6
	%	3.0	3.1	1.9	2.1	2.6	1.0	21.8	21.4	10.5
SVL12	frq	204	184	53	1220	1003	217	16.7	18.3	24.4
	%	2.5	2.7	1.2	0.5	0.6	0.2	6.0	5.5	4.1
SVL_ALL	frq	5358	4787	3145	236630	154679	81951	2.3	3.1	3.8
	%	66.0	69.7	72.4	91.6	91.0	93.0	44.2	32.3	26.1

表3 ハリー・ポッター第5巻固有名詞および口語表現比率

		type			token		
		all	unq	col	all	unq	col
All	frq	8114	436	143	258220	17673	616
	%	-	5.4	1.8	-	6.8	0.2
Ch01	frq	1307	38	2	5825	288	2
	%	-	2.9	0.2	-	4.9	0.0
Ch02	frq	1221	43	7	6085	424	9
	%	-	3.5	0.6	-	7.0	0.1
Ch03	frq	1236	55	2	5258	312	3
	%	-	4.4	0.2	-	5.9	0.1
Ch04	frq	1169	42	1	5697	394	2
	%	-	3.6	0.1	-	6.9	0.0
Ch05	frq	1149	49	4	5388	455	6
	%	-	4.3	0.3	-	8.4	0.1
Ch06	frq	1417	72	3	6819	477	3
	%	-	5.1	0.2	-	7.0	0.0
Ch07	frq	1152	41	2	4596	254	2
	%	-	3.6	0.2	-	5.5	0.0
Ch08	frq	985	37	0	4242	283	0
	%	-	3.8	0.0	-	6.7	0.0
Ch09	frq	1436	84	4	8094	701	5
	%	-	5.8	0.3	-	8.7	0.1
Ch10	frq	1324	74	2	5864	530	3
	%	-	5.6	0.2	-	9.0	0.1
Ch11	frq	1304	55	2	6019	364	2
	%	-	4.2	0.2	-	6.0	0.0
Ch12	frq	1582	62	2	8415	578	2
	%	-	3.9	0.1	-	6.9	0.0
Ch13	frq	1539	75	1	8993	522	6
	%	-	4.9	0.1	-	5.8	0.1
Ch14	frq	1518	72	2	8120	590	2
	%	-	4.7	0.1	-	7.3	0.0
Ch15	frq	1336	64	1	6890	479	1
	%	-	4.8	0.1	-	7.0	0.0
Ch16	frq	1174	77	2	5960	473	6
	%	-	6.6	0.2	-	7.9	0.1
Ch17	frq	1362	68	1	6616	509	3
	%	-	5.0	0.1	-	7.7	0.0
Ch18	frq	1372	72	2	6919	442	4
	%	-	5.2	0.1	-	6.4	0.1
Ch19	frq	1328	75	0	6738	576	0
	%	-	5.6	0.0	-	8.5	0.0
Ch20	frq	1219	36	86	6041	395	257
	%	-	3.0	7.1	-	6.5	4.3
Ch21	frq	1450	72	20	7338	494	45
	%	-	5.0	1.4	-	6.7	0.6
Ch22	frq	1541	60	2	8039	501	2
	%	-	3.9	0.1	-	6.2	0.0
Ch23	frq	1484	70	2	7458	453	7
	%	-	4.7	0.1	-	6.1	0.1
Ch24	frq	1535	63	3	8082	594	5
	%	-	4.1	0.2	-	7.3	0.1
Ch25	frq	1598	89	14	8129	542	28
	%	-	5.6	0.9	-	6.7	0.3
Ch26	frq	1540	80	1	8622	579	1
	%	-	5.2	0.1	-	6.7	0.0
Ch27	frq	1470	62	7	7510	494	9
	%	-	4.2	0.5	-	6.6	0.1

Ch28	frq	1544	67	2	8059	582	2
	%	-	4.3	0.1	-	7.2	0.0
Ch29	frq	1418	63	3	7463	541	3
	%	-	4.4	0.2	-	7.2	0.0
Ch30	frq	1599	62	53	8295	566	151
	%	-	3.9	3.3	-	6.8	1.8
Ch31	frq	1597	89	4	8003	471	5
	%	-	5.6	0.3	-	5.9	0.1
Ch32	frq	1233	58	3	6221	492	5
	%	-	4.7	0.2	-	7.9	0.1
Ch33	frq	916	25	1	3860	243	1
	%	-	2.7	0.1	-	6.3	0.0
Ch34	frq	1076	24	1	5227	248	1
	%	-	2.2	0.1	-	4.7	0.0
Ch35	frq	1206	52	5	7742	565	6
	%	-	4.3	0.4	-	7.3	0.1
Ch36	frq	878	45	0	3844	262	0
	%	-	5.1	0.0	-	6.8	0.0
Ch37	frq	1350	51	0	8113	468	0
	%	-	3.8	0.0	-	5.8	0.0
Ch38	frq	1489	86	17	7636	532	27
	%	-	5.8	1.1	-	7.0	0.4

表4 ハリー・ポッター第5巻未知語比率

		type			token		
		all	nrt	cnv	all	nrt	cnv
Ch01	frq	691	617	92	1222	1092	130
	%	52.9	52.1	27.5	21.0	22.7	12.8
Ch02	frq	472	377	112	646	499	147
	%	38.7	37.4	23.3	10.6	12.5	7.0
Ch03	frq	378	309	98	572	450	122
	%	30.6	30.1	21.7	10.9	11.5	9.0
Ch04	frq	289	183	117	422	260	162
	%	24.7	23.0	18.5	7.4	9.0	5.7
Ch05	frq	267	148	123	324	172	152
	%	23.2	21.8	18.0	6.0	7.2	5.1
Ch06	frq	341	241	118	451	304	147
	%	24.1	22.7	16.9	6.6	7.4	5.4
Ch07	frq	251	175	86	327	222	105
	%	21.8	19.4	18.8	7.1	6.6	8.4
Ch08	frq	174	104	78	226	134	92
	%	17.7	15.0	15.1	5.3	5.8	4.8
Ch09	frq	237	163	88	309	182	127
	%	16.5	14.7	12.4	3.8	3.5	4.3
Ch10	frq	215	173	61	345	263	82
	%	16.2	15.5	12.6	5.9	6.1	5.2
Ch11	frq	217	153	75	318	226	92
	%	16.6	13.6	16.2	5.3	4.9	6.6
Ch12	frq	272	198	102	383	253	130
	%	17.2	15.6	13.7	4.6	4.9	4.1
Ch13	frq	196	150	51	249	183	66
	%	12.7	12.0	7.6	2.8	3.1	2.1
Ch14	frq	193	157	47	248	195	53
	%	12.7	12.2	7.5	3.1	3.5	2.1
Ch15	frq	156	105	59	194	122	72
	%	11.7	10.3	9.1	2.8	3.0	2.5
Ch16	frq	122	94	34	186	140	46
	%	10.4	10.0	6.4	3.1	4.0	1.9
Ch17	frq	129	91	40	136	93	43
	%	9.5	8.5	6.5	2.1	2.2	1.8
Ch18	frq	112	85	37	161	107	54
	%	8.2	7.7	6.1	2.3	2.4	2.2
Ch19	frq	132	96	41	195	115	80
	%	9.9	8.6	7.4	2.9	2.5	3.7
Ch20	frq	193	63	145	486	93	393
	%	15.8	8.5	19.4	8.0	3.5	11.5
Ch21	frq	117	77	43	137	85	52
	%	8.1	6.5	7.5	1.9	1.7	2.3

Ch22	freq	157	133	29	195	154	41
	%	10.2	10.4	4.7	2.4	2.8	1.6
Ch23	freq	139	101	46	163	109	54
	%	9.4	8.4	7.4	2.2	2.2	2.1
Ch24	freq	127	100	35	163	114	49
	%	8.3	8.2	5.3	2.0	2.1	1.8
Ch25	freq	155	133	27	214	176	38
	%	9.7	10.0	4.2	2.6	3.1	1.5
Ch26	freq	91	73	21	100	76	24
	%	5.9	5.7	3.2	1.2	1.3	0.8
Ch27	freq	109	55	55	134	64	70
	%	7.4	5.1	7.5	1.8	1.4	2.3
Ch28	freq	120	89	34	151	103	48
	%	7.8	6.9	5.8	1.9	1.7	2.4
Ch29	freq	84	55	30	97	63	34
	%	5.9	4.9	4.7	1.3	1.3	1.2
Ch30	freq	130	86	51	196	126	70
	%	8.1	6.6	8.3	2.4	2.3	2.5
Ch31	freq	113	98	19	150	130	20
	%	7.1	7.0	3.6	1.9	2.1	1.1
Ch32	freq	70	52	19	77	56	21
	%	5.7	6.0	3.0	1.2	1.8	0.7
Ch33	freq	42	25	17	44	26	18
	%	4.6	3.6	4.5	1.1	1.0	1.4
Ch34	freq	47	46	1	55	54	1
	%	4.4	4.6	0.4	1.1	1.2	0.1
Ch35	freq	85	64	22	110	79	31
	%	7.0	6.2	5.3	1.4	1.3	1.9
Ch36	freq	3	2	1	3	2	1
	%	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1
Ch37	freq	2	2	0	2	2	0
	%	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
Ch38	freq	0	0	0	0	0	0
	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表5 ハリー・ポッター第5巻品詞別基本語比率

基本語頻度 (token : 上段/type : 下段)

POS	NN	VB	JJ	RB	others	total
品詞	名詞	動詞	形容詞	副詞	その他	合計
J	13426	36043	5604	12784	101091	168948
	364	145	103	72	124	808
H	13838	8476	3125	2453	4518	32410
	574	348	157	58	38	1175
others	17011	9463	3967	2875	757	34073
	2199	1393	953	298	36	4879
total	44275	53982	12696	18112	106366	235431
	3137	1886	1213	428	198	6862

レベル別比率

POS	NN	VB	JJ	RB	others	total
J	7.9	21.3	3.3	7.6	59.8	100.0
	45.0	17.9	12.7	8.9	15.3	100.0
H	42.7	26.2	9.6	7.6	13.9	100.0
	48.9	29.6	13.4	4.9	3.2	100.0
others	49.9	27.8	11.6	8.4	2.2	100.0
	45.1	28.6	19.5	6.1	0.7	100.0
total	18.8	22.9	5.4	7.7	45.2	100.0
	45.7	27.5	17.7	6.2	2.9	100.0

品詞別比率

POS	NN	VB	JJ	RB	others	total
J	30.3	66.8	44.1	70.6	95.0	71.8
	11.6	7.7	8.5	16.8	62.6	11.8
H	31.3	15.7	24.6	13.5	4.2	13.8
	18.3	18.5	12.9	13.6	19.2	17.1
others	38.4	17.5	31.2	15.9	0.7	14.5
	70.1	73.9	78.6	69.6	18.2	71.1
total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

全体比率

POS	NN	VB	JJ	RB	others	total
J	5.7	15.3	2.4	5.4	42.9	71.8
	5.3	2.1	1.5	1.0	1.8	11.8
H	5.9	3.6	1.3	1.0	1.9	13.8
	8.4	5.1	2.3	0.8	0.6	17.1
others	7.2	4.0	1.7	1.2	0.3	14.5
	32.0	20.3	13.9	4.3	0.5	71.1
total	18.8	22.9	5.4	7.7	45.2	100.0
	45.7	27.5	17.7	6.2	2.9	100.0

表6 ハリー・ポッター第5巻内容語・機能語別基本語比率

no	pos1	pos2	word1	word2	frq
1	VB	IN	C	F	11511
2	DT	NN	F	C	11296
3	PRP	VB	F	C	11296
4	NN	IN	C	F	10170
5	IN	DT	F	F	10101
6	IN	PRP	F	F	8172
7	VB	PRP	C	F	7555
8	VB	VB	C	C	6171
9	VB	RB	C	C	6034
10	NN	VB	C	C	5340
11	VB	DT	C	F	5217
12	RB	VB	C	C	5172
13	IN	VB	F	C	4964
14	JJ	NN	C	C	4914
15	PRP	NN	F	C	4830
16	DT	JJ	F	C	3544
17	IN	NN	F	C	3471
18	RB	IN	C	F	2812
19	VB	NN	C	C	2605
20	NN	NN	C	C	2599
21	NN	CC	C	F	2575
22	IN	IN	F	F	2512
23	CC	VB	F	C	2081
24	VB	JJ	C	C	1938
25	NN	PRP	C	F	1888
26	JJ	IN	C	F	1863
27	NN	RB	C	C	1770
28	PRP	IN	F	F	1744

* C = 内容語(content word) / F = 機能語(function word)

	All	1-28	29-138
frq	177902	144145	33757
%	-	81.0	19.0

C	C	freq	%
n/a	n/a	2005	1.1
n/a	J/H	5202	2.9
J/H	n/a	6696	3.8
J/H	J/H	27818	15.6
		41721	23.5
C	F		
n/a	-	11709	6.6
J/H	-	39351	22.1
		51060	28.7
F	C		
-	n/a	11356	6.4
-	J/H	41584	23.4
		52940	29.8
F	F		
-	-	32179	18.1
			18.1
others (n/a) only		2005	1.1
others and known		34963	19.7
known (J/H) only		140932	79.2

*分析にはすべての組合せを使用

JJ	形容詞	PRP	代名詞
RB	副詞	DT	限定詞(冠詞など)
NN	名詞	IN	前置詞/従属接続詞
VB	動詞	CC	等位接続詞

3. 考察

分析の結果から、中学から高校1年生レベルの約1500語の基本語と固有名詞などを合わせた語彙のカバー率は85%ほどであり、多くの語彙は既知の語である可能性が高いことがわかった。また、第1章における未知語の比率は20%くらいと全体とほぼ変わらないが、第2章では、第1章ででてきた既出語と基本語を除くことにより、半分の10%近くになり、章を重ね全体の1/3を読み終える頃には、5%レベルにまでなることもわかった。もちろん、出会う単語をすべて覚えていくわけではなく、これはあくまでも理論的な数値ではあるが、章が進むにつれて、読みやすくなることは事実であろう。基本語以外の単語でも知っていることもあったり、知らなくても辞書を引いてみてわかったり、文脈からなんとなく推測できたりすることもある。また、何度も出てきたため自然とだいたいのニュアンスを覚えてしまっていたり、あまり物語の筋とは関係がないので、とりあえず読み飛ばしてみたりで、特にひどくひっかかるものでなかったりするものもあると考えると、この数値も真実味を増してくる。

品詞の分析からは、基本語の中でも中学レベルでは動詞の比率が高く、それ以上のレベルでは、名詞の比率が高いことが分かったが、基本的な動詞はその分、いろいろな単語と一緒に多義的に用いられるため、その使い分けをしっかりと把握して、イメージをつかむことが重要であろう。それに対して、名詞は動詞と比べて意味のぶれも少なく、その意味

では取り組みやすいと言える。ある程度、基本的な動詞をおさえたら、数の多い名詞に取りかかることにより、理解できる組合せが増えていくだろう。また、2語の単語の組合せで考えてみると、両方とも知らない語彙であることはほとんどなく、どちらかの語彙は、大抵は知っている語彙であることもわかったが、そう考えると、コロケーションの上で、理解の手がかりがある場合が多いことも見えてくる。

この結果から、多読の際に語彙を制限する必要があるかどうか結論を出すことは難しいが、第5巻における8000語以上という出現語彙数を考えても、基本語のカバー率は高く、また、テキストの長さが増すにつれて、以前に出てきた語彙との遭遇が増すことから、未知語の比率が減っていくことを考えると、多読において、本物の(authentic)テキストを用いることも、それほど非現実的な話ではないと思われる。第1巻の語彙の数は約3900語であるが、その第1巻の語彙の第5巻におけるカバー率から新出語の割合を算出し、さらに、基本語を除いてみると、既知語の割合はおよそ95%となる。これは他の巻でもほぼ同様の結果であり、JACET8000の8000語でのカバー率が87.4%、アルクのSVLの12レベル(12000語)でのカバー率でも91.6%であることを考えると、半分以下の語彙でそれ以上のカバー率に達していることになり、ハリー・ポッターを読むなら、ハリー・ポッターの語彙を頭に入れた方が、効率がよさそうなことがわかる。

これは、JACET8000の語彙リストなどの精度が悪いという意味ではなく、汎用的に作られた語彙リストであるため、特に高レベルの語彙において、こういった分野のテキストには、関係のない語彙も含まれているということを意味しているが、長いテキストを読み続けることにより、読解における語彙の負担が軽減されることはうなずけるだろう。それには、背景知識が増える中で、物語に入りやすくなり、類推も容易になるという側面もあり、こういった長いテキストを読むことを回避して、語数の短いテキストを読む必要は、必ずしもないことを意味している。ともすると、教科書などの短いテキストでは、突然に話が始まり、中途半端に終わってしまったり、わかりやすく概要は書かれていても、内容面でも簡易化が行われてしまっているため、味気なかったりすることもあるが、上級者になるのを待たなくても、このような分量は多くても面白い子ども向けのテキストを読むことの効果は期待できる。重要なのはNuttall(1996: 127)の述べるように、読むのを楽しむ → よりすばやく読む → よりたくさん読む → より理解する → 読むのを楽しむ → よりすばやく読む → よりたくさん読む・・・といった、よい循環を作ることであろう。

多読の際には、精読の際とは異なった読解のスタイルが必要であり、完全な理解を求める必要は必ずしもなく(山本, 2000)、未知語の中には文脈からの推測により、読み飛ばされるものも多いだろう。つつい学習者には語彙のコントロールされたテキストを提示しがちだが、十分に面白く、学習者がのめり込める内容であれば、語彙制限のないテキストでも十分に読みこなせる可能性があることが示唆された。また、そのように学習者のレベ

ルにあわせて簡略化 (simplified) されたテキストは、そのためにやや不自然で (deliberate)、逆にわかりにくい文章になることもある (Davies, 1984)。Yano, et al. (1994) も指摘するように、読みやすさの修正には、簡略化 (simplification) だけでなく、精緻化 (elaboration) 方向も考えられ、その意味でも本物の (authentic) のテキストを読むことは有効であると思われる。Day & Bamford (1998: 57) では、本物であることを重視しすぎる危険性について触れ、簡略化されたテキストが必ずしもわかりづらいとは言えず、それが子供向けにかかれたもの (simple account) なのか (Widdowson, 1978)、一般向けの作品を書き直したもの (simplified version) なのか (Widdowson, 1978)、学習者向けにかかれたもの (simple original) なのか (Hill & Thomas, 1988) も考慮し、簡略化されているが本物であるようなテキストの条件を探ることが必要であると述べているが、今回の分析は年齢が上の子ども向けに書かれた本が、学習者にとって十分読解可能であることを示唆している。

長沼 (2001) では、TIME と TIME for Kids という一般向けの雑誌と子ども向けの雑誌を比較した結果、子ども向けのテキストでは語彙面よりも構造面での簡略化が行われていることが指摘されたが、語彙的な簡略化は必ずしも読みやすさにつながるわけではなく、読解ストラテジーを意識したり、辞書を適切に使用したりすることにより、自立的な読みを促進する方が望ましいとも言える。本物であること (authenticity) のコントロールは、語彙などの素材面 (material authenticity) だけでなく、タスク (task authenticity) の難易度においてもコントロールされてしかるべきであり、最初から完全な読みを求めるのではなく、難易度を下げて、物語の流れを楽しみながら読むといったレベルからはじめることにより、コントロールしていく方法もありうるだろう。とりあえずは、大筋を把握するに留めて、もう一度読み返しながら、細部を把握していくといった読み方も考えられ、その中で、気に入った箇所があれば、何度でも繰り返して読み返す中で、自然と表現が頭に残ること (incidental learning) も期待できる (Hulstijn, 2003)。既に知っている内容であっても、繰り返し読む中で、意識的に努力することなく、英語のまま意味がわかるようになるといった、読みの自動化の効果もあるだろう。このような本物のテキストの段階的な繰り返しながらの読みは、子どもの読みに近い、より自然でコミュニカティブな読み (communicative reading) であるとも言え、多読の方法の1つとして有効であると思われる。多読の効果に関する理論的な考察については、Krashen (1993)、Day & Bamford (1998)、野呂 (2001) などに詳しいが、単語認知の自動化や語彙力の増強などの効果が実証されており、今後さらに学習者の認知プロセスに踏み込んだ研究をする中で、多読における語彙の統制と読みの自然さ (authenticity) の問題を考えていきたい。

参考文献

- Davies, A. (1984). Simple, simplified and simplification: what is authentic?. In J. C. Alderson and A. H. Urquhart (ed.). *Reading in a foreign language*. London: Longman, pp.181-195.
- Day, R. R. and Bamford, J. (1998). *Extensive reading in the second language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Hill, D. R. and Thomas, H. R. (1988). Survey review: graded readers (part I). *ELT Journal*, 42(1): 44-52.
- Hulstijn, J. (2003). Incidental and intentional learning. In M. H. Long and C. J. Doughty (eds.). *The handbook of second language learning*. Oxford: Blackwell.
- Krashen, S. D. (1993). *The power of reading: Insights from research*. Englewood, Colorado: Libraries Unlimited.
- 長沼君主 (2001) 「コーパスに基づいたリーダビリティの測定とその教育的応用」『On JALT2000: Towards the New Millennium』JALT (pp.129-135)
- Nation, P. (1990). *Teaching and learning vocabulary*. Boston: Heinle & Heinle.
- 野呂忠司 (2001) 「多読指導」 門田修平・野呂忠司(編)『英語リーディングの認知メカニズム』くろしお出版 (pp. 339-351)
- 野呂忠司 (2003) 「英語の語彙知識と言語運用」 門田修平(編著)『英語のメンタルレキシコン—語彙の獲得・処理・学習』松柏社 (pp. 31-62)
- Nuttall, C. (1986). *Teaching reading skills in a foreign language*. Oxford: Macmillan Heinemann.
- Rowling, J. K. (2003). *Harry Potter and the Order of the Phoenix*. London: Bloomsbury.
- 齊藤俊夫・赤野一郎・中村純作 (1998) 『英語コーパス言語学—基礎と実践』 研究社出版
- Schmitt, N. (2000). *Vocabulary in language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 鈴木寿一 (1996) 「読書の楽しさを経験させるためのリーディング指導」 渡辺時夫(編)『新しい読みの指導: 目的をもったリーディング』三省堂 (pp. 116-123)
- 高梨庸雄・高橋正夫 (1987) 『英語リーディング指導の基礎』研究社出版
- 卯城祐司 (2000) 「語彙指導」高梨庸雄・卯城祐司(編)『英語リーディング事典』研究社出版 (pp. 41-57)
- 山本敏子 (2000) 「速読指導と多読指導」高梨庸雄・卯城祐司(編)『英語リーディング事典』研究社出版 (pp. 278-298)
- Yano, Y., Long, M., H., & Ross, S. (1994). The effects of simplified and elaborated texts on foreign language reading comprehension. *Language Learning*, 44(2). pp.189-219.
- Widdowson, H. G. (1978). *Teaching language as communication*. Oxford: Oxford University Press.